

[本城先生]

瀬戸内圏研究センターのゼネラルマネージャーの本城でございます。まず、瀬戸内圏研究センター長、多田邦尚教授からシンポジウム開催に先だって挨拶をお願いいたします。

[多田先生]

皆さん今日は。瀬戸内圏研究センター長をしております農学部が多田です。よろしく申し上げます。本日は年度末のお忙しい中、当センターのシンポジウムに参加していただき、ありがとうございます。

私達のセンターは地域の問題・課題を掘り起こし、それらを研究して地域の発展に寄与することを主要な任務として、2008年に香川大学内に設立されました。香川大学では国立大学から法人化したことによって、現在は中期計画と呼ばれる5年毎の計画を立てて、これに従って大学が運営されております。ですから、このセンターも2008年から、大学の中期計画に沿って研究を進めております。

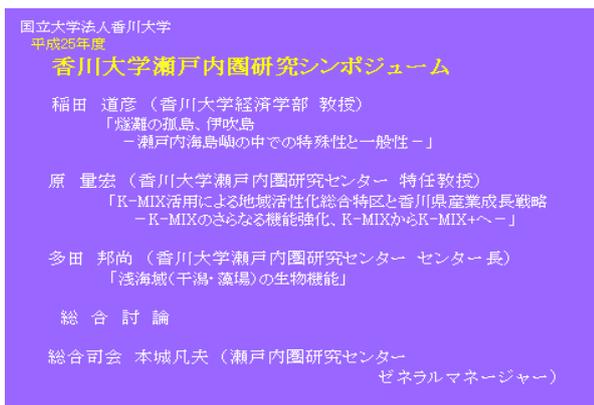
現在、当センターは3つのグループで研究を進めており、

- ・まず一つ目が農学部の私、多田をリーダーとする干潟を含めた浅海域・沿岸海域の生態系や環境を研究する海グループ。
- ・次に経済学部の稲田教授をリーダーとする瀬戸内圏の地域・文化の発展と観光資源の創造を研究する文化観光グループ。
- ・そして当センターの特任教授の原先生をリーダーとする瀬戸内圏における生涯健康カルテネットワーク構想を進めている遠隔医療グループ。

これに加えて、学長の強い要望もあり、このたび工学部の角道教授をリーダーとする「水を守る」を研究テーマとしたグループが立ち上がりました。このため、今後はこれら4グループで研究を進めていくこととなります。それでは、これまで活動してきた3つのグループによる地域貢献の実例を簡単に紹介いたします。

海グループでは瀬戸内海の栄養塩管理ならびに食物連鎖系の研究を行っており、その中で河川や外洋、海底から供給される栄養塩の量を見積もりました。その結果、陸域および海底からの窒素・リンの供給量、特に窒素が減少したことによって、ノリの色落ちが引き起こされたことを指摘し、香川県知事にも説明いたしました。そして、この問題解決のために自治体一体型の組織体制を作り、ノリ網をスカートで囲って肥料を添加する施肥実験を小豆島の内海湾で実施しており、今のところノリ生産者の方々からも一定の評価を受けております。

また、香川大学のマリンステーションが庵治町にあります。このマリンステーションを拠点として、志度湾での牡蠣の大量斃死に関する研究を行っております。これは貝リングが



ルという装置を用いた養殖の安全・安心管理の研究であり、牡蠣業者の方から強い関心を持っていただいているところです。

同じ海グループの工学部の末永教授は、従来にないような繁茂力を有する機能性藻場床を開発いたしました。これは海藻が増えていく地盤の替わりになるもので、メディアにも高く取り上げられております。

文化・観光・歴史グループでは離島問題に関する研究を行っています。大きな経済投資の開発では島の存続は困難であり、島の生活を尊重して、島の素材を生かして、それを興す人たちと島民とが根気よく交流し、経済を発展させることが大切であるという提言をまとめております。また、瀬戸内国際芸術祭や四国遍路の世界遺産に向けた学術調査も行っております。最近、「四国遍路道指南」という冊子を発刊し、大好評で、新聞、テレビ等でも紹介されたところです。

遠隔医療グループでは原先生の広い人的ネットワークとたゆまぬ行動力が実り、香川県が国から医療福祉総合特区の認定を受けました。この事業は香川県や医師会、看護協会などと一体になった活動であり、111の医療機関が参加しております。現在、これらの活動は香川県のみならず東日本大震災の被災地や開発途上国へと拡大しております。

また、糖尿病地域連携パス、電子カルテや電子お薬手帳、周産期電子カルテネットワークの開発などを進めております。これらを達成するには非常に高いハードルがあるのですが、例えばオリーブナースの育成など、着々と香川県生涯健康医療の充実がなされております。

さらに、本事業に関係する技術開発のための情報交換会なども頻繁に開催されております。先日は日本訪問中のラオス首相が高松を来訪され、原先生が長く携われてこられた K-MIX の説明をさせていただきました。

本日のシンポジウムでは、これら 2012 年度と今年度 2013 年度の 2 年間の研究成果の報告を予定しております。

なお、文化観光グループでは大学の中期目標の年度計画に 2012 年からは「香川県西部海域の研究を行う」という目標を立てました。これまでの東部海域の研究から西に研究のフィールドをシフトさせて活動しており、本日はその成果の報告があると思います。また、他のグループについても、今まではどうしても志度湾であるとか、高松周辺といったような東讃が主な研究フィールドだったのですが、次第に西の方へとそのフィールドを移動しながら成果を上げて行ければと考えております。

本日は私達の研究に対する皆様からの活発なご議論をよろしく願いいたします。簡単ですが、センター長の挨拶とさせていただきます。

[本城先生]

多田先生、どうもありがとうございました。それでは香川大学経済学部教授の稲田先生から講演をお願いいたします。